

<牧会ミニ通信>No.14 2020. 7. 26

今年の梅雨はなかなか明けようです。沖縄の梅雨は不思議と6月20日前後でした。沖縄のイメージといえば、青い空と青い海と思いがちですが、定住すると違います、曇りの日が大半なのです。青い空と青い海とに出合わせられたらラッキーというものです。

敗戦後、日本人の多くは、憲法9条はアメリカから日本に押し付けられた占領政策にすぎないと言います。しかし、戦争に敗けた日本は、それ以外の選択肢はなかったのです。1972年に沖縄は本土復帰しました。

沖縄県民は平和憲法を本土と共有できたと喜びました。読谷村役場の側に憲法9条全文が掲げられています。おそらく、憲法9条を日本中で一番真面目に喜び感謝したのは沖縄県民ではなかったでしょうか。

17世紀、江戸幕府の許可を得て、薩摩が琉球を支配しました。明治11年、廃藩置県により「沖縄県」となりましたが、「薩摩支配・ユー」は、昭和20年まで70年間継続していたのです。終戦を迎えると、こんどは、「アメリカ・ユー」となり、「ドル札」「右側通行」の時代を迎えます。

沖縄が自治権を得たのは、本土復帰した昭和47年です。「屋良朝苗」さんが、県知事としてはじめて選ばれました。

沖縄では、言葉で言い尽くせない素晴らしい出会いの機会が与えられました。深い傷を負い、痛手を受けてきた「うちなんちゅうー」ですから、表面的には、屋根の上の「シーサ」に似て、こわもてなのですが、(オーバーは特にこわい)一、しかし、内に秘めている優しさは計り知れません。本土では10年お付き合いしても、なかなか踏み込めない領域があります。ところが、沖縄では「イチャリバ・チョーデエ」(会えば兄弟)です。気を許してお付き合い許された機会は忘れがたいものとなりました。

「ヤチムン・焼き物の里」の主任大嶺實清さん、反戦思想家で彫刻家の「金城実」さん、95歳の前胡座市長「大山 朝常」さん、こうした方々との出会いの機会は、本土では先ずありえません。大山宅では3時間にわたる面会が許されました。本土では、まずありえない行政の中心の方との交わりです。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次

